

◆「動と静研究会」が発足いたします。



この度、「動と静の融合によるイノベーション」「静の働き・役割」等のテーマを少人数で議論・研究する「動と静研究会」が発足いたします。研究会を通して各企業での個別フォーラムに発展させていきたいと考えております。

詳細はホームページをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

開催予定：7/17（木）、8/28（木）、10/9（木） 全3回

深川センターでは年に2回の「すみわけフォーラム」や「動と静研究会」をはじめとする各種研究会を通して、議論が深まり、知恵が醸成される場をつくってまいります。

◆前川共創会の総会で深川センターの事業を紹介いたしました。

5/23に前川製作所の協力企業様による前川共創会定時総会が開催されました。その中で当財団の事業活動のご報告と各種研修についてご紹介いたしました。

今後、各企業の文化風土に合わせた研修や研究会の立ち上げや企業同士の先端技術をつなぐビジネスマッチングのご提案、ネットワークづくりを目指しております。

◆深川センターのホームページが新しくなりました。



ホームページアドレス ⇒
<http://fpic21.org/>

研修会のお知らせや各種イベント情報をご案内しております。

パンフレットやPlatinum Newsのダウンロードもできます。

今後、内容を充実させてまいりますので、どうぞご覧ください。

【お知らせ】「動と静研究会」の次テーマとして「すみわけ研究会」を年内に立ち上げる予定です。ホームページでご案内いたしますのでご覧ください。

【コラム】“新しい関係性における静のはたらき”

昭和 20 年代、日本人の男性の平均寿命は 55 歳でした。そして定年年齢も 1970 年代まで 55 歳という企業が主流でした。今は多くの方が 65 歳まで働く時代になりました。21 世紀の“すみわけ”の実現に向けて静の世代をとりまく環境が変わってきています。

今、企業活動の大部分の仕事は動の若いメンバーだけでも対応できるようになっており、静の世代も後半になってくると、動のサポートをすることが多くなります。サポートは静にとってはこれまでの仕事の延長線上の慣れた仕事です。動にとっては精度の高い仕事をしてもらえるので双方にとって大変好都合です。

しかしこれまでの延長線上の仕事だけでは静が培ってきた経験や知恵が十分に活かされず、それは企業や産業界にとって大きな損失です。働き甲斐を感じながら、静が活かされて生きることのできる状況（場所）を創り出すことが今、求められているのではないのでしょうか。

企業の中で新しいことに取り組むことによって、静が働き甲斐を感じられるとか、社会に貢献していると感じられ、それが企業の価値を高めていることになるのが理想でしょう。

しかし、静がやりたいと思っているアイデアが企業にとって価値があるかどうかの評価判断、資金、実現するためのメンバーの確保等の課題をクリアする必要があり、それは簡単なことではありません。そこを乗り越えるには、時にはケンカをしながら、意見を言い

合って、最後は会社全体として、最終目標は“お客様の問題を解決すること”すなわち“すみわけ商品をつくるしかない”ということを含意して身体化していくしかありません。

ここで必要とされるのは、双方を同じ場所に集め“お客様の課題を解決するためにどうしたら良いか”を考える場を演出できる経験を積んだ静のコーディネータカかもしれません。

社会（市場）からの要請に応えるお客様の課題は個別多様化し高度化しています。自分達だけで対応できる課題はもう 20 世紀で解決してしまっています。ニーズの本質を的確につかみ、それに応えていくには社内の部門連携は当然のこと、お客様も含めた共同体化が必要です。全体の総合力と全体の知恵を発揮することなくしてはすみわけのハード・ソフトは生まれません。

21 世紀は個から人や組織同士の関係性が大切になっており、その関係性を維持していくところに、体験と工夫をしてきた静の持ち味が大いに活かされるのではないかと考えています。

